

漁海況情報第7報 (2019年10月4日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0139

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>」でも公開中です。

1. 海況

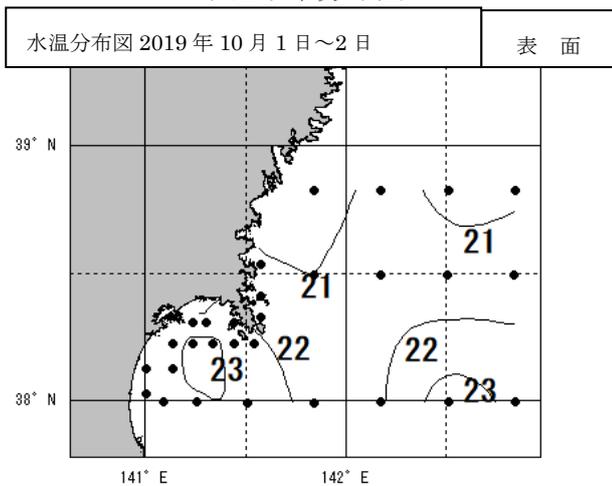
142° 30' E 付近に冷水が波及し、38° 30' N 以北の水深 100m で低水温になっています。

宮城県沿岸の表面水温は 20～23℃台、100m 深水温は 5～13℃台となっています。表層水温は平年と比べ 1～2℃高くなっていますが、水深 100m では 142° 30' E 付近に冷水が波及し、38° 30' N 以北で最大 4℃低くなっています。[P1. 水温水平分布図] [P1. 水温平年偏差図]。鉛直断面図からも、38° 30' N と 38° N において 142° 30' E 付近に冷水が波及しているのが見てとれます。[P2. 水温鉛直断面図]。

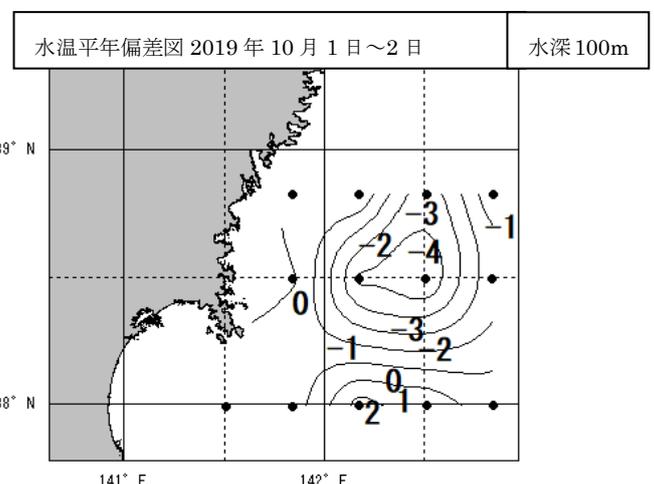
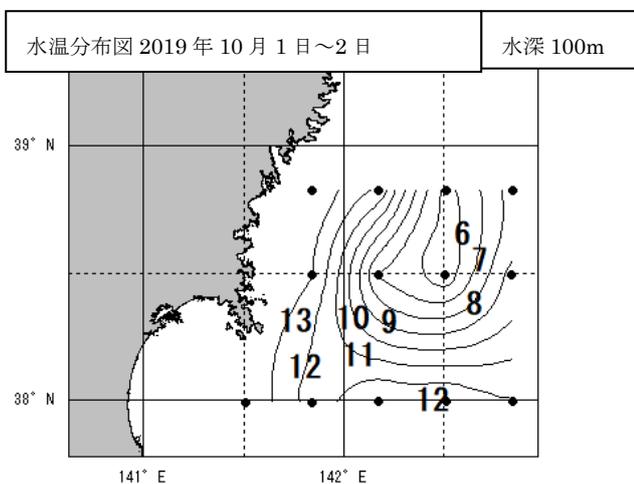
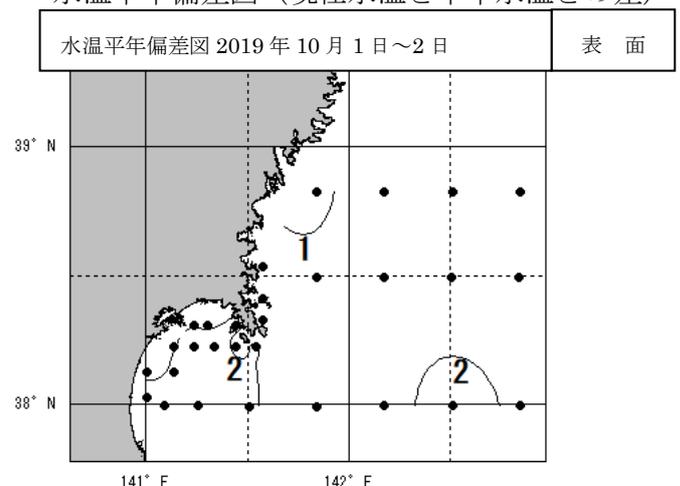
(一社) 漁業情報サービスセンター表面水温情報によると、20℃台の混合水が下北～三陸～金華山沿岸に分布し、22℃台の暖水が常磐～仙台湾沿岸を北上しています [P2. 東北海域の海況図：(一社) 漁業情報サービスセンター]。

9 月下旬の定地水温は 21～22℃台で、桂島を除く観測点で平年よりやや高い値となっています [P3. 定地海洋観測図]。海底直上水温は 5～20℃台です [P3. 海底直上水温図]。

・水温水平分布図

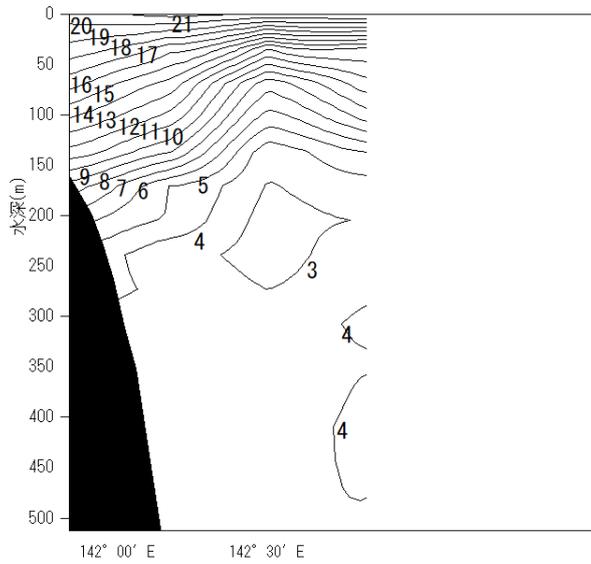


・水温平年偏差図 (現在水温と平年水温との差)

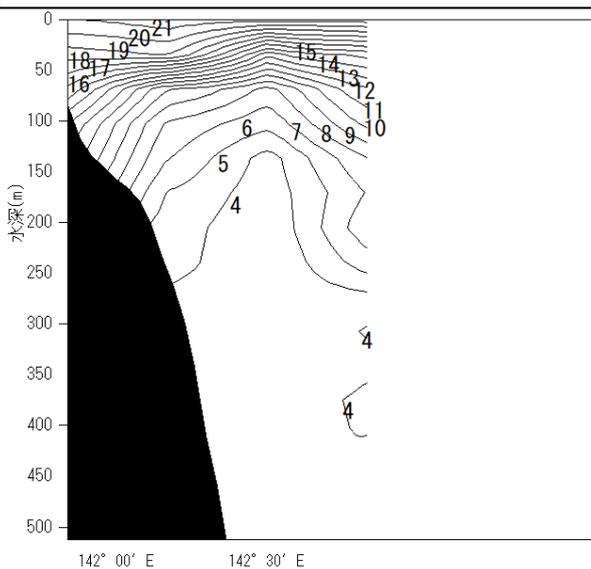


・水温鉛直断面図

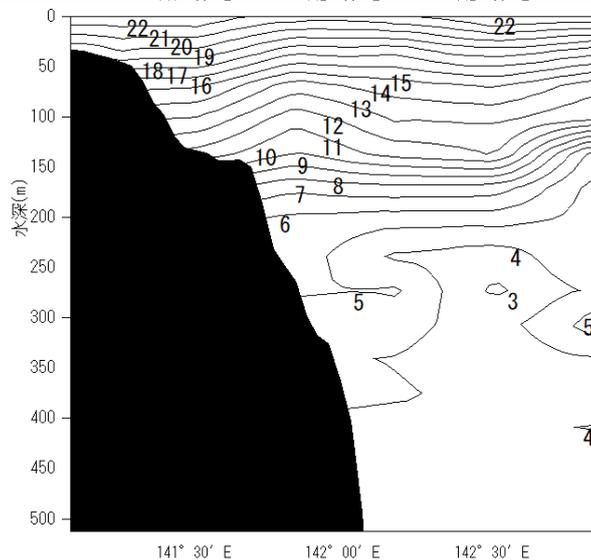
38° 50' Nライン (気仙沼沖合ライン)



38° 30' Nライン (雄勝沖合ライン)

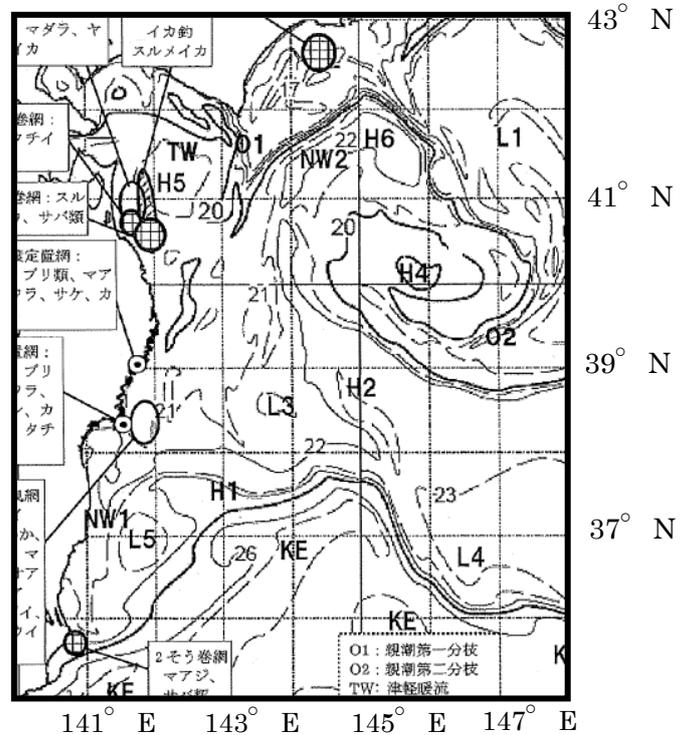


38° 00' Nライン (亶理沖合ライン)



2019年9月30日の東北海域の海況(表面水温)

(一社) 漁業情報サービスセンター



特記事項 (一社) 漁業情報サービスセンター

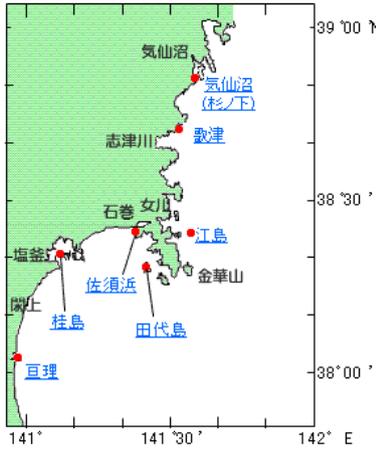
【海況】 (9月30日表面水温)

- ・親潮第一分枝は八戸沖東 80 海里で停滞, 19°C台が三陸沿岸に分布。
- ・20°C台の混合水が下北～三陸～金華山沿岸に分布。
- ・第二分枝先端は志津川沖東 260 海里まで南下。
- ・黒潮続流は相馬沖東 180 海里へ北上後, 房総沖を東進。
- ・22°C台の暖水は常磐～仙台湾沿岸を北上。
- ・21～22°C台の暖水が 144～146° E の沖合を厚岸沖南 60 海里まで北上, 暖水塊を形成。

【漁況】 (9月27日～30日)

- ・まき網: 1 そう巻の多くは道東沖で操業中, 八戸沖では 3 ヶ統がスルメイカとサバ類を漁獲。
- ・定置網: 三陸定置網はサバ類とブリ類主体。
- ・金華山沖では底曳網がサバ類を漁獲。
- ・カツオ竿釣: 宮城～青森の沖合でカツオ主体に操業。
- ・カツオ・マグロ巻網: 三陸沿岸でカツオとキハダなど漁獲。
- ・スルメイカ: 八戸は釣 1500 箱, 底曳 280 トン水揚。
- ・サンマ: 漁獲は低調だが漁場が 160° E 以西に形成されつつあります。

・定地海洋観測



	9月下旬		平年差	前年差
気仙沼(杉ノ下)	21.2	やや高め	0.8	0.5
歌津	21.7	やや高め	1.4	0.6
江島	21.7	やや高め	1.2	0.6
田代島	22.4	やや高め	1.0	0.6
佐須浜	22.3	やや高め	0.7	0.1
桂島	22.0	平年並み	-0.5	0.3
亶理	22.9	やや高め	1.1	1.3

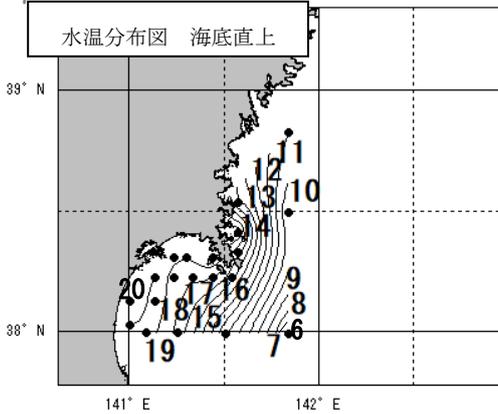
※平年値 岩井崎(過去30年)
 江島(過去30年)
 佐須浜(過去10年)
 歌津(平成28年12月から観測再開)
 桂島(平成24年3月から観測開始)
 亶理(平成24年10月から観測開始)

※最新の定地海洋観測結果は、

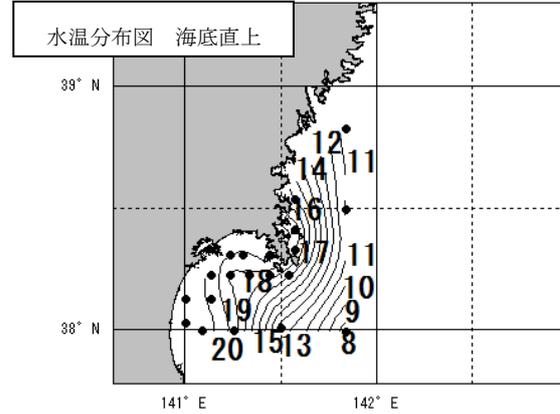
<http://www.miyagi-suisan-navi.jp>でも公開中です。

・海底直上水温図

7・海底直上水温(2019年10月1日~2日)



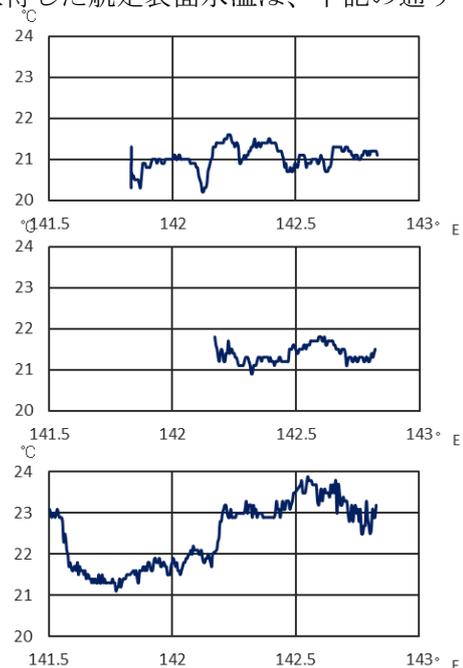
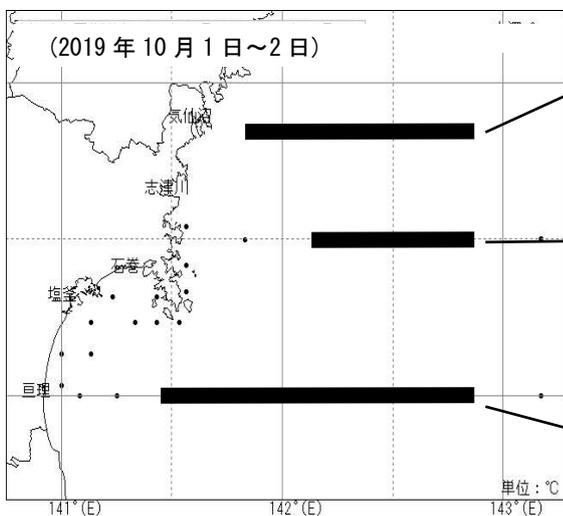
・海底直上水温(2018年10月3日~11日)



(※観測水深は500mまでです)

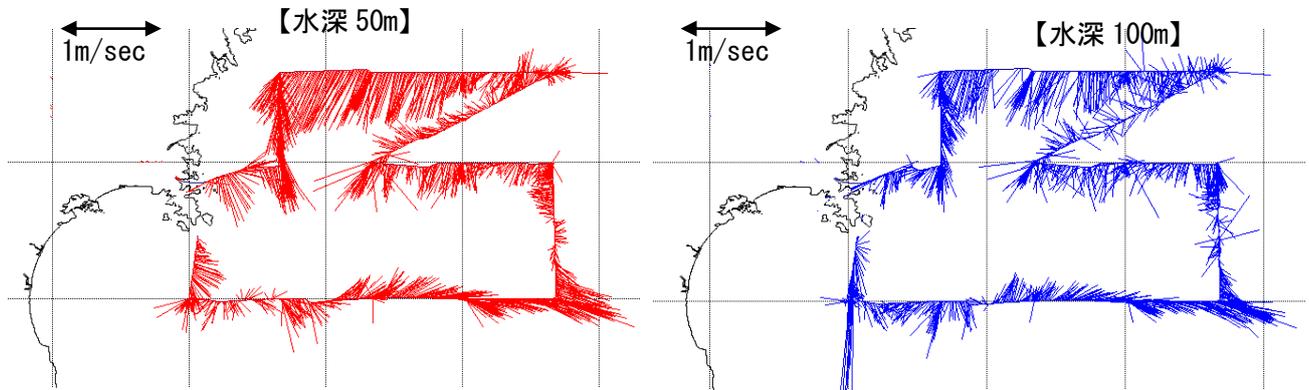
2. 表層水温情報

みやしおに搭載している「表層モニタリングシステム」で取得した航走表面水温は、下記の通りです。



3. 流向流速情報

みやしおに搭載している「超音波ドップラー流向流速計(ADCP)」による流向流速情報は下記のとおりです。



4. 漁況

9月の水揚量は前年と比較して、クロマグロ、サバ類、サワラ、メバチなどが増加しています。サンマの水揚げは前年の1%にとどまり、その他ビンナガ、シロサケ、マダラ、ガザミなどの水揚げが減少しています。

(単位：トン)

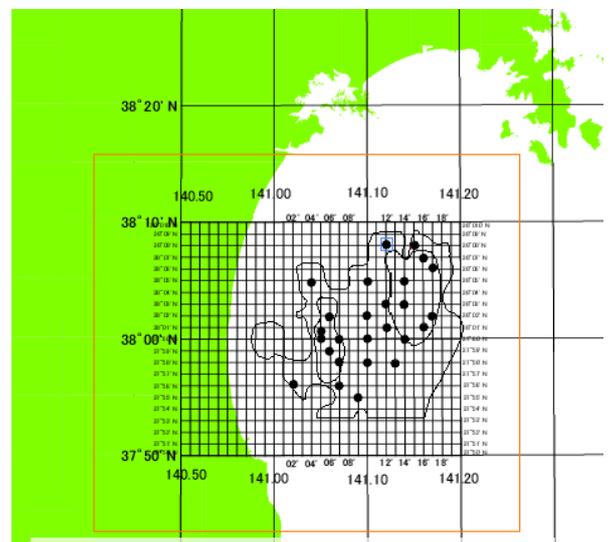
2019年9月	沖底	小底	旋網	サンマ棒受	竿釣	定置網	刺網	いか釣り	延縄	流し網	その他	総計	前年同月比
ビンナガ									10		25	35	8%
メバチ			0		6				301		1	308	223%
クロマグロ			46			1				0	1	48	883%
キハダ			126		1	0	0		30	0	0	157	66%
カツオ			1167		4511	0	0		0	0	583	6261	169%
サバ類	827	15				476	7				20	1344	480%
マアジ	87	27	0			30	2				2	148	94%
サンマ				41							1	42	1%
ブリ	0	0			0	621	2				12	635	171%
ヒラメ	0	1				1	10				4	16	71%
マコガレイ	1	10	0			0	1				1	13	44%
マガレイ			2	0		0	0					2	114%
スルメイカ	285	12	0			0	0	1			0	299	44%
マイワシ			537			49					12	598	69%
カタクチワシ						43					0	44	50%
ガザミ		0				0	29				33	62	51%
マダラ	13	0	0				0			1	1	14	36%
サワラ	0	0	0			21	8		0		1	30	505%
シロサケ	1	0	0			3	9				17	29	24%

5. イカナゴ夏眠期調査結果

イカナゴ(めろうど)は水温が15°Cに達すると潜砂し夏眠します。このとき仙台湾中央部の、海底が粒径の大きい砂や小石からなる海域に集中的に分布します。この生態を利用し、9月26日~27日にかけて夏眠期分布密度調査を実施しました。使用した漁具は貝桁網に似た爪曳き網です。

右図に示す計25点について調査しましたが、採捕尾数は過去最低の1尾のみとなり、2017年以降イカナゴ資源が急激に減少していることが推定されました。

次のイカナゴ関連調査は、来年1月下旬に予定されている稚仔魚調査です。



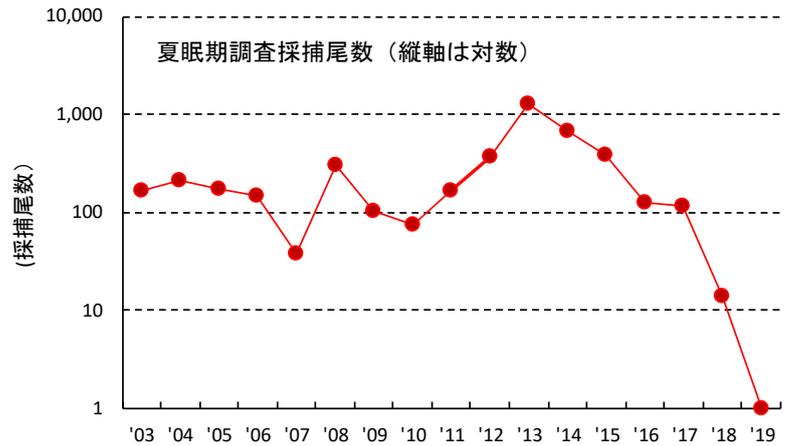
夏眠期分布密度調査点(黒丸部分)



イカナゴ



イカナゴ爪曳網

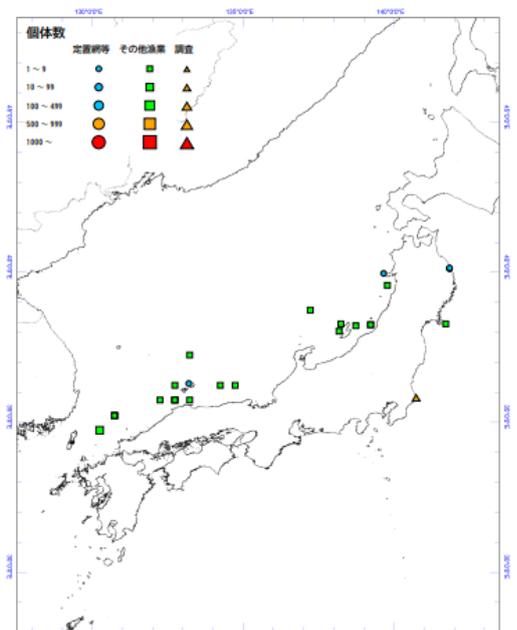


6. 大型クラゲ情報

(一社) 漁業情報サービスセンターによると、今年は例年に比べると大型クラゲの発生が多く、7～8月の九州～山陰地方では漁業被害も報告されていました。9月10日、11日、19日には、本県金華山沖で操業した沖合底曳網でも大型クラゲが1～3個入網しています。

漁業情報サービスセンターでは、今後太平洋側でまとまった出現の可能性は極めて低いとしていますが、100cmを超えるような大型化したクラゲが来遊した場合、少量でも被害が出ることもありますので、当センターでは今後も情報提供を行っていく予定です。

なお全国の大型クラゲの最新出現情報は、漁業情報サービスセンターHP (<http://www.jafic.or.jp/kurage/>) で随時更新されていますので、ご確認ください。



2019年10月1日時点の大型クラゲ出現状況
(漁業情報サービスセンターHPより)

7. 調査船運航計画

みやしお	
10/15～17	沖合定線調査
10/23～	サンマ漁場調査
開洋	
10/9	刺網調査
10/16	温排水調査(用船)
10/23～	サンマ調査船上シミュレーション